

団体・組織の概要

※太枠内、必須事項。その他は、該当する項目を記載してください。

1.18

団体/会社名	宜野湾の美ら海を考える会		
代表者	三浦信男	担当者	具志堅宗弘
所在地	〒900-0032 那覇市松山1-1-23 TEL: 098-868-2862 FAX: 098-868-2862 E-mail:		
設立の経緯 ／沿革	1996年、沖縄県港湾課は宜野湾港マリーナ沖のサンゴ礁水域に海浜緑地造成の埋立計画を公表したので、私たち魚介藻の専門家や生物教職者等がこれに反対し、97年の「海の日」にサンゴ礁との共生を指標として出席者及び委任者計21名が会則案を承認し本会を結成した。		
団体の目的 ／事業概要	「海、その望ましい未来」は沖縄海洋博のテーマであったが、干潮時浮上するリーフは総て埋立の標的となった。そこで、埋立に勝るリーフ利活用の手法を探索し自然サンゴ礁園の創設を提言したが、行政は否定してきた。リーフを歩いて楽しむことのできる環境教育の場とすることを目的とする。		
活動・事業実績 (企業の場合は 環境に関する 実績を記入)	98-99年 WWF、全労済の助成により宜野湾港沖サンゴ礁水域の動植物調査を実施して「宜野湾港沖サンゴ礁の動植物図鑑」を刊行した。 99年 第15回水郷水都全国会議で宜野湾港沖サンゴ礁を誌上報告した。 99年 WWFセミナーで宜野湾港沖サンゴ礁の利活用を講演報告した。 03年 県は県議会で約束した環境実態を調査し海浜緑地計画を廃止した。 04年 第10回国際サンゴ礁シンポジウムで自然サンゴ礁園構想を発表。 06年 宜野湾市長の許可を得て海浜公園入口にサンゴ礁園の看板を設置。 07-08年 自然サンゴ礁園の東リーフ隣接水域にサンゴ種苗を移植した。		
ホームページ			
設立年月	1997年7月 *認証年月日(法人団体のみ) 年 月 日		
資本金/基本財産 (企業・財団)	円	活動事業費/ 売上高(H20)	800,000円
組 織	スタッフ/職員数 5名(内専従 1名) 何れも無給 個人会員 18名 法人会員 2名 その他会員(賛助会員等) 名		

政策のテーマ 宜野湾の自然サンゴ礁園の創設

■政策の分野 ④ 自然環境の保全

■政策の手段 ⑨ 組織・活動

団体名： 宜野湾の美ら海を考える会

担当者名： 事務局長 具志堅 宗弘

■キーワード	生物多様性	環境学習園	自然環境保全	生態系再生	里浜づくり
--------	-------	-------	--------	-------	-------

① 政策の目的 サンゴ礁は沖縄の最大の財産ですが、干潮時干出するサンゴ礁リーフがサンゴ礁として利用された実績は国立公園を除き皆無に等しい。自然サンゴ礁園は皆様の指導により都市部サンゴ礁リーフ内で「生物多様性基本法」を具現化するものでありたい。

② 背景および現状の問題点

水産行政関係には多くの海洋生物専門家を擁しているが、沖縄県港湾行政担当には海洋生物専門家がいらない。また、(財)港湾・海域環境研究所の「サンゴ礁と共生する港湾整備マニュアル案」等に関心を示す職員も少ない。彼らの多くは土木専門家であり、水産行政担当と同じく海を管理しているが、彼らに海を管理する資格があるかが疑われる。

③ 政策の概要

1999年12月4日から翌年7月1日まで宜野湾市や近隣市町村、遠く本島北部からも海の愛好家延べ100人が参集し、サンゴ礁利活用検討協議会を4回開くことができた。第1回協議会では「こんな海がいいな」をテーマとしてワークショップを開き、最終回には海浜緑地計画の廃止と代案として自然サンゴ礁園の創設という結論を得て県に提言した。自然サンゴ礁園について、県行政オンブスマンが港湾整備計画で何らかの位置付けができないか（例えば自然観察地区）を問うたところ、県港湾課は「港湾整備計画は公共事業として港湾施設を整備する計画で、地域住民が進める自然サンゴ礁園は、港湾施設ではないので公共事業の整備対象にはならない。また、港湾整備計画で定める必要はない」と回答している。従って自然サンゴ礁園の行政的位置付けは現在なお不明です。

④ 政策の実施方法と全体の仕組み（必要に応じてフローチャートを用いてください）

第7回 NGO/NPO・企業環境政策提言集の P326 に「サンゴ礁への負担を過度にならないよう、さらに検討することが必要」との環境省職員からのコメントがありました。当然のことと存じますが、その前に環境省から国土交通省に申し入れがあったかどうかを伺いたいと思います。なぜならば、自然サンゴ礁園を計画している水域の管理者は沖縄県港湾課となっており、貴募集要項の4に応募された提案について：「環境省のみならず、他省庁や自治体にも、働きかけます。」と記載されているからです。

なお、WWF1999 年度自然保護事業報告書は「在東京の（財）港湾・海域環境研究所は1999 年『サンゴ礁と共生する港湾整備マニュアル案』を刊行して、沖縄の望ましい港湾整備を実現するためには、サンゴ礁との共生を目指すことが重要であるとしている。宜野湾港防波堤沖サンゴ礁海域は運輸省所管となっているので、『美ら海会』の目的と一致することとなる。従って、今後は宜野湾港防波堤沖サンゴ礁を題材として、具体的にどのようなサンゴ礁利活用手法が計画されるかが課題となる」と報告している。

⑤ 政策の実施主体（提携・協力主体があればお書きください）

宜野湾市企画政策課：サンゴ礁園計画が港湾水域管理者である県港湾課により認められれば、市も協力します。

宜野湾市中央公民館：毎年夏休み期間に自然サンゴ礁園で親子磯観察会を開催しており、昨年も60人余の参加者があった。

沖縄水産高校生物班：本会会長の出身母体であり、すべての面において提携・協力してきた。

NPO コーラル沖縄：独自で沖縄本島のサンゴ礁生態系再生計画を主催しており、自然サンゴ礁園内の東リーフ隣接水域でもサンゴ種苗を移植した。

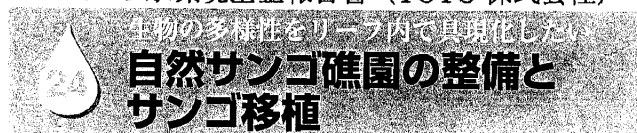
AQUA CULTURE Co：陸上タンクでサンゴ類等海生生物を養殖販売している。

⑥ 政策の実施により期待される効果（具体的にお書きください）

造礁サンゴは東京湾にも分布するが、サンゴ礁の礁原は沖縄でないと見られない。サンゴ礁が海洋の中で最も生物多様性に富むことは周知の事実であるが、生物多様性基本法が誕生した今日、実験的なサンゴ礁のビオトープ池や観察ルートの取り入れなどサンゴ礁をサンゴ礁としての利用を関係者が協議し、自然サンゴ礁園が法を具現化する実証試験場になることを願う。自然サンゴ礁園では、生きたサンゴやサンゴ礁魚の生態がそのまま見られ、サンゴ礁の島沖縄の環境や観光面で大きく貢献することは論を待たない。なお、沖縄県自然保護課は「自然環境の保全に関する指針」により、同海域を評価ランクⅣ〔自然環境の創造を図る区域〕としてをいる。

⑦ その他・特記事項

TOTO 水環境基金報告書（TOTO 株式会社）



団体名 宜野湾の美ら海を考える会 主な活動地域 沖縄県宜野湾市

助成年度 2007年度

★代表者 事務局長 具志堅 宗弘 ★電話番号 098-868-2862

当初の、リーフ（干出サンゴ礁）内に人工礁池を作り、サンゴ種苗を移植するという計画は、礁池造成に県行政の水域占用許可が下りず、結局、リーフ外にサンゴ移植を行った。その後のサンゴの着生・成育は順調だ。しかし、サンゴ礁再生のためにも、リーフ内での人工礁池造成及びサンゴ移植実験は必要であり、その活動は「生物多様性基本法」をリーフ内で具現化するものと言える。実験後にはビオトープ、自然サンゴ礁園となって、子ども達の貴重な環境教育の場としても活用できる。計画を実現するため、同団体では県議会に陳情書を提出するなど、引き続き努力している。

